

普段猫と接する機会が少ない人は、猫に対して「不機嫌そう」「感情が分かりにくい」というイメージを抱いていませんか？じっくり観察してみると、猫の機嫌を表すさまざまな感情表現が見つかります。

機嫌がいい時に取りやすい行動としては、額や体を擦りつける▷喉をゴロゴロ鳴らす▷目を細める—などがあります。

人の体に額をぶつけてきたり、自分の体を擦りつけながら行ったり来たりするのは、所有権を主張する「マーキング」によるもので、好きな人に対してよく見られる行動です。甘えているようにも見え

あ  
ん  
し  
ん  
ペ  
ツ  
ト  
ラ  
イ  
フ

134

## 猫のごきげん

ますね。

「喉鳴り」と表現されるゴロゴロという音は、甘えているときに特に大きくなりますが、緊張していたり、弱ったりしている場合も鳴らすようです。

じゅうたんや床を前足でもんでいるように見えるしぐさは、生まれたばかりの子猫が、母猫の母乳の出が良くなるようにしていた行動の名残です。好きな人になでてもらったり、甘えたりするときに多く見られ、爪を立てて引っかけるようにもむ猫もいます。

一方、毛を逆立てていると

きは、遊びに夢中になっていたり、怒っていたりと、興奮していることが多いです。背中の中毛はもちろん、尻尾の中毛をブラシのように逆立てていることもあります。背中を丸め、相手をにらみながら「ウー」「シャー！」と威嚇しているときは、かなり怒っている状態です。

「ポーカーフェイス」「そっけない」と思われがちな猫ですが、このような形で感情を表現しています。室内で猫とふれあう機会がある方は、ぜひ観察をし、コミュニケーションを楽しんでみてくださいね。

(アニコム損保  
獣医師 松山美咲都)